

令和6年度生駒市立病院管理運営協議会第2回会議録

■ 日 時 令和7年2月25日（火）午後2時00分から

■ 場 所 生駒市立病院7階 講堂・交流センター

■ 出席者

(1) 会 員	会長	生駒市長	小紫 雅史
	副会長	生駒市立病院 院長	遠藤 清
		一般社団法人生駒市医師会 副会長	萩原 洋司
	公募市民		玉井 得雄
			岡島 保弘
	市自治連合会を代表する者	生駒市自治連合会 会長	森岡 文夫
	地元自治会を代表する者	東地区自治連合会 会長	松井 邦友
		東生駒地区自治会 会長	福井 敏也

(2) 事務局 【生駒市】 領家副市長、田中特命監、吉村子育て健康部長、岡村子育て健康部次長こども政策課長兼務、水澤地域医療課長、天野課長補佐、奥野主幹病院事業推進係長兼務、川口係員

【指定管理者】 辻川看護部長、持田事務長、岸田参与

■ 傍聴者 1名

■ 会議の公開・非公開の別 公開

■ 会議の内容

【事務局（市）】 定刻になりましたので、ただいまから「令和6年度生駒市立病院管理運営協議会第2回会議」を開催いたします。

本日の会議は、村木会員が所用のため欠席されていますが、本日は過半数の会員にご出席いただいておりますので、「生駒市立病院管理運営協議会要綱」第6条第3項の規定により、会議は成立しております。

また、同要綱第7条の規定により本会議は公開としております。本日の会議では、会議録作成のため録音させていただいておりますので、ご了承の程、よろしく願いたします。

次に、本日の配布資料等について確認させていただきます。

<配布資料の確認>

●会議次第

●令和7年度 生駒市立病院事業計画書

●令和7年度 生駒市立病院事業計画書説明資料

●【資料1】 事前協議

●【資料2】 奈良県通知「病床の整備にかかる事前協議について」

●【資料3】 「生駒市立病院のこれからを考える」ワークショップ

●【資料4】生駒市立病院10周年記念式典(案)及びビジョン(案)の発表
以上7点になります。

それでは、次第に入ります前に、事務局ではありますが、令和6年11月1日より領家副市長が就任しましたので、一言ご挨拶をいただきますようお願いいたします。

【領家副市長】11月1日付で副市長に拝命しました領家といいます。よろしくお願いいたします。

【事務局(市)】それでは、会議次第2の「会議内容の確認」について、事務局からご説明申し上げます。

本協議会は、市立病院の管理運営について、会員の皆様方の意見を反映させることで、健全な管理運営及び市民参加の病院を実現することを目的として開催されます。

本会議において、皆様からのご意見を求める事項は、生駒市立病院管理運営協議会要綱に定められており、頂いたご意見を元に、PDCAサイクルを意識した市立病院の継続的な業務の改善及び健全な管理運営を図って参ります。

それでは、会議次第3の「協議案件」に移らせて頂きます。

要綱第5条で「会長は市長、副会長は市立病院の院長をもって充てる」と規定しております。以後の進行につきましては、要綱第6条の規定により、会長が議長となりますので、小紫市長、よろしくお願いいたします。

【小紫会長】会議次第に基づき進めていきたいと思っております。今日は「令和7年度生駒市立病院事業計画書」について色々ご議論をいただくと共に、報告案件として、行政と市立病院だけではなく、市民の皆様、病院関係者の皆様にも参加していただき4回行ってまいりました「生駒市立病院のこれからを考える」ワークショップの取りまとめの報告、また、骨子ですが、生駒市のビジョンや市立病院の運営方針を簡単に説明しますので、こういうことも意見として入れて欲しいとか、病院の運営方針にこういうことも具体的に入れて欲しいとか、市のビジョンの中にこういう方向性も明記すべきではないかといったお話がいただければ、大変ありがたいと思っております。

協議案件の「令和7年度生駒市立病院事業計画書」ですが、病院の事業計画書を皆様にお示しをし、ご意見をいただき、必要に応じて修正等を行い、議会等にも報告をし、市民にも公表することで、令和7年度の病院事業を進めていく基本的な材料にしていくことが目的です。また年2回ある内のもう1回は、具体的に事業計画に基づいてどういう事業がなされたのか、こういう所を頑張らないといけないとか、次年度の計画にはこういうことも入れていかなければいけないとか、ご意見をいただきたいと思います。以前は3回していただきましたので、もう1回は、協議会の会員の皆さんにもご参加いただき、市民の皆様、医療関係の皆様との意見交換の場所、または生駒市立病院のPRの場所を外向きにやって、色々なご意見をいただき、それを管理運営協議会の議論にも生かしていただく形でやらせ

ていただいています。

そういう流れがあるをご理解いただいた上で、本日は令和7年4月1日から生駒市立病院事業計画に基づき、どのように事業を進めていくかをご意見いただく場ですので、忌憚のない意見をいただければと思います。それでは事務局から協議案件について説明をよろしくをお願いします。

【事務局（市）】それでは、令和7年度生駒市立病院事業計画書についてご報告いたします。

最初に本日の資料、「令和7年度生駒市立病院事業計画書」をお願いいたします。目次をご覧ください。

本事業計画書は、「1 医療提供計画」「2 施設管理計画」「3 組織図」「4 収支計画」の4部構成となっております。

事業計画の策定に当たっては、令和5年度実施状況調査報告及び令和6年度事業計画の実施状況の確認、また、当協議会にて頂いたご意見等を計画に反映させた内容となっております。

次に、「令和7年度生駒市立病院事業計画書説明資料」をお願いいたします。

目次をご覧ください。診療科目、病床数、人員体制、患者数の基本項目を、9ページ以降が病院事業計画のコンセプトごとに区分して記載しております。

課題等をどのように計画に反映させているかなどの内容がわかりやすいように作成しております。本日は、主に説明資料に沿って、説明させていただきます。

では、説明資料の1・2ページをお願いいたします。

表の見方ですが、表の一番左端が病院事業計画の欄、右に向かって順に令和5年度事業報告、令和6年度事業計画、抽出された課題等を表記しており、右端が令和7年度事業計画となっております。

令和7年度事業計画、抽出された課題がどのように計画に反映されているかがわかるように、課題に対して計画に反映している部分を下線表記しています。

それでは指定管理者から説明をお願いいたします。

【事務局（指定管理者）】それでは、説明資料の1・2ページをご覧ください。

「診療科目」でございます。令和7年4月より糖尿病内科と眼科を開設し、19診療科でございます。なお、眼科については糖尿病内科の患者様の眼窩疾患のフォローのため、一般患者の受け入れはいたしません。

次に、3・4ページの「病床数」でございます。令和8年3月31日時点の病床数は210床でございます。奈良県の令和6年度西和医療圏における病床の整備にかかる事前協議について、令和6年12月に20床の増床が承認されたことから、病院全体の機能強化を進めます。なお、病床の整備にかかる事前協議については、この後、市から詳しい説明がございます。

続きまして、5・6ページの「人員体制」でございます。

令和8年3月末における常勤医師は、合計27名を計画しております。看護師は合計186名を計画しております。医師の確保につきましては、常勤医師が不足している整形外科等での確保を含め、増員を図り、入院医療を充実させます。

行政と市立病院だけではなく、市民の皆様、病院関係者の皆様にワークショップにも参加していただき、ご意見をいただいています。

続きまして、7・8ページの「患者数」でございます。一日平均患者数ですが、年間の一日平均患者数は入院165.0人、外来295.0人でございます。入院・外来患者数の増加に向けた取組といたしまして、入院医療に対応できる常勤医師の確保、地域の医療機関との病病・病診連携の推進及び救急患者の確実な受け入れのほか、積極的に広報活動や医療講演会を実施します。

市民への周知の取組としては、ホームページに加え、LINE公式アカウントでの配信、病院だよりの発刊といった広報活動の推進を、そして地域の医療機関への周知の取組としては、地域医療連携室の職員による地域の医療機関への情報提供を推進します。

続きまして、9・10ページをご覧ください。市立病院のコンセプトの「質の高い医療の提供」でございます。本年度においても、引き続き安全で質の高い医療サービスの提供を目指し、患者にとって最適な治療・ケアを行います。来年度も腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術と患者の身体への負担が少ない低侵襲手術に取り組みます。ダ・ヴィンチについては耐用年数が経過し、症例も少ないことから撤去しております。本年度の手術件数の目標ですが、全体で1,300件を目指します。また、分娩件数としては250件としております。産婦人科と小児科が連携することで、新生児、乳幼児に係る母子医療体制を整備・充実します。また、導入予定機器として、産婦人科で使用する4D超音波診断装置を予定しております。

続きまして、11・12ページをお願いします。「主要4疾病に係る医療体制」として、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病について、提供できる医療機能や役割を明記しております。患者満足度の向上につきましては、入院・外来患者アンケート調査の実施やご意見箱の内容への対応、院内スタッフ対象の接遇研修の実施などを掲げております。

続きまして、13・14ページをご覧ください。医療安全管理体制につきましては、市民・患者に信頼される安全で安心できる病院を目指して、医療安全管理委員会、医療安全カンファレンス、医療安全勉強会を定期的実施し、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めます。また、感染症法に基づく協定指定医療機関として、感染症発生時の県による要請に基づき、適切に対応します。

続きまして、15・16ページをご覧ください。地域完結型の医療体制構築への寄与としまして、地域の医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、介護・福祉施設との密接な連携を図ります。また、病診連携懇話会を開催し、地域医療従事者の情報共有、意見交換の場を提供します。在宅支援機能の充実として、令和6年6月から在宅療養後方支援病院の認定を受け、医療連携登録医や協力医療機関連携施設等との連携を強化

し、在宅患者等の増悪時の積極的な受け入れを行っております。

続きまして、17・18ページでございます。周辺の他の医療機関との連携として、令和6年4月に市医師会に加入したことを踏まえ、医師会と地域医療の課題を共有し、顔の見える関係を構築することでスムーズな地域医療連携を推進します。また、地域の診療所との地域医療連携の推進のため、引き続き、MRI、CT、内視鏡及びエコーの紹介利用を推進します。さらに、地域の医療機関との病病・病診連携及び協力体制を重視し、紹介率40%、逆紹介率25%を目指します。

続きまして、19・20ページをご覧ください。救急医療の充実でございます。救急患者を「断らない」という姿勢のもと、24時間365日受入体制を整え、地域住民が安心できる救急医療体制の充実を目指し、救急受入件数、3,200件、救急応需率95.0%を目指します。また、市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加に向けて、引き続き、関係機関と協議を行うとともに、市内等輪番病院や休日夜間応急診療所のバックアップの役割を果たします。

続きまして、21・22ページをお願いします。救急受入体制として、医師、看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、事務職員の当直等、患者数に応じて必要な人員体制を引き続き整備します。特に整形外科等の常勤医師の確保に努め、当直・オンコール体制のさらなる充実を目指します。

続きまして、23・24ページをご覧ください。小児医療の充実については、小児の救急対応、入院患者の受け入れ等小児二次医療体制の充実を図ります。また、引き続き、奈良県と情報交換をしながら、北和小児科二次輪番体制に寄与します。

次に、災害時医療の確保でございます。大規模災害時において、傷病者の受け入れや医療救護に対応可能な体制を引き続き整備し、災害対策マニュアルに沿って現場スタッフや地域住民が参加する実地訓練を行います。また、市が主催する「災害時における医療救護体制の整備に関する会議」の議論を踏まえた取組を進めます。

次に、予防医療の啓発でございます。さらなる市民の疾病予防と疾病の早期発見・早期治療、重症化の防止を目的として、医療に関する基礎知識や最新の情報を医療講演会を通して提供します。特に、市民の健康づくりや疾病予防を促進するため、院内講演の充実に加え、自治会等各種団体への出張講座を積極的に実施します。また、市民の幅広い年代層が健診を受けやすくするよう努めるとともに、乳幼児への定期予防接種を引き続き実施します。

続きまして、25・26ページをご覧ください。市民参加による運営でございます。令和6年度に実施したワークショップにおいて提案された意見について、可能なものから対応を進めていきます。市民の意見の反映の仕組みとしまして、入院・外来患者アンケート調査の結果、ご意見箱の意見及び対応について、ホームページや院内掲示での公表、病院事業推進委員会や本協議会への報告など広く市民等に周知します。また、市民交流事業として、健康フェスティバルや院内コンサート、また、令和7年6月に開院10周年を迎えますので記念式典等の開催を予定しています。また、「環境に配慮した運営」はご覧のと

おりでございます。

最後に、27ページをご覧ください。令和7年度の収支計画を表記しています。表の中ほど、医業収入から医業費用を差し引いた令和7年度の医業利益は2億5,900万円。医業利益から医業外収益、医業外費用を差し引きした経常利益につきましては、2億8,200万円を計上しており、前年度の経常利益から2,200万円減少となります。

以上でございます。

【事務局（市）】続きまして、説明資料の4ページ、病床数に関連する内容として、資料1「生駒市立病院の病床整備計画の事業計画書」と資料2をご覧ください

昨年4月に、奈良県におきまして、奈良県保健医療計画に定めた保健医療圏ごとの基準病床数及び地域医療構想における2025年の必要病床数に対して、既存の一般病床及び療養病床の病床数が下回る圏域である西和医療圏において、病床の整備が可能となり、174床の募集がなされました。

これを受けて、生駒市立病院では6階東に確保していました将来対応スペースを活用し、地域医療の現状及び生駒市立病院が果たすべき役割を整理し、増床申請を行ったものです。

それでは、事業計画書に基づき、概要をご説明いたします。

1ページは「(1)増床の計画」でございます。中ほどの着工予定としまして、令和7年6月を予定しています。その下の増床後の使用予定日ですが、病院運営をしながらの工事となりますので、2年弱ほど期間をみて、令和9年4月を目指しております。

診療科目は変更ありません。

病床数としまして、一般病床を現在の210床から52床増床し、262床の計画としております。

2ページをご覧ください。「新たに整備する病床の利用率目標と目標達成に向けた取組」ですが、生駒市立病院は、地域の中核的な病院として、救急患者など、緊急性のある入院を常時受け入れることができる体制を取る必要があると考えています。新たに整備する病床につきましては、緊急性のある入院を受け入れる体制の強化を図るべく整備したいと考えており、生駒市立病院経営強化プランでも規定しております70%程度の稼働率を目標としています。

「目標達成に向けた取組」としまして、医師等人員の確保による診療体制強化と、地区医師会入会による地域の医療・介護機関との連携強化の推進により、地域の入院要望を積極的に受け入れて、入院件数の増加に取り組めます。

(2)設置(増床)する病床、52床の内訳ですが、救急医療及び在宅医療後方支援として、33床、周産期医療として、14床、小児医療として、5床となります。なお、設置場所は、6階東側の将来対応スペースを予定しています。

(3)敷地及び建物の計画ですが、敷地は現在と変更ございません。また、工事期間は設計に4か月、工事に1年半を予定しています。

3ページをご覧ください。(4) 資金に関する計画ですが、直近の他病院建設の実績をベースに6階東側のスペースの工事費用として、概算にはなりますが約7億円を見込んでおります。

(5) 医療従事者の確保についてですが、表の右側におきまして、医師や看護師などの確保予定の人員を記載しています。表の下側に確保の計画を記載しています。(医師)につきましては、奈良県立医科大学を中心とした大学医局訪問、人材紹介業者の活用、グループ施設を中心とした臨床研修医派遣などを基本としており、内科医1名、小児科医1名、産婦人科医1名を計画しております。(看護師)や(薬剤師)、(その他の職種)につきましてはご覧のとおりです。

続きまして、6ページをご覧ください。(8) 開設又は増床等の背景・趣旨になります。生駒市立病院は、これまで西和医療圏において、二次救急医療を担う救急告示病院として、生駒市病院事業計画の「病院のコンセプト」に基づき対応してきましたが、その中でも今後も公立病院として強化すべき役割として特に「救急医療」「周産期医療」「小児医療」の3つにおいて、貢献できるものと考えています。それぞれの内容につきましては、6ページから8ページに記載しておりますのでご覧ください。

8ページ下段をご覧ください。ここでは「増床の背景・趣旨」を記載しております。生駒市立病院が増床申請を行う理由は、生駒総合病院の後継病院として地域に不足していた二次救急医療機能をはじめとする医療を提供すべく開院したもので、今後も地域の医療ニーズに対応する責務を負っていると考えています。

先に記載しております3つの柱であります「救急医療」「周産期医療」「小児医療」については、開院当初より取組んできたものですが、地域の医療ニーズに応じて、さらに強化する必要があると考えています。今後の医療需要の動向として、奈良県地域医療構想においては、医療機関所在地ベースの在宅医療等の需要が増加する見込みとされ、西和医療圏における「現時点で訪問診療を受けている患者数」についても、病院開院前である2013年との比較では、2025年に50%以上の増加が予想されています。

このような状況の中、昨年、生駒市立病院経営強化プラン策定に係る生駒市病院事業推進委員会の議論においても、「在宅療養後方支援病院」の施設基準を取得して緊急時のバックアップ体制を整えるべきとの提案があったこと、また、生駒地区医師会からも在宅医療に係る市内診療所の後方支援について要望があったことを受けまして、令和6年6月に承認を受け運用を開始しています。これまでの急性期病院としての役割に加え、在宅療養患者の増悪時の緊急入院に対応できる病床を確保し、機能を強化していく必要があると考えています。今後も増加していく地域の医療ニーズに対応するためにも増床し、柔軟な病床運用により、公立病院として、地域の医療提供体制を強化する必要があると考え、申請させていただきました。

続きまして、資料2をご覧ください。本市の申請に対し、12月20日付で奈良県より一般病床20床の承認を受けました。条件として、小児病床及び周産期病床に限るとされていますが、資料1にて説明させていただきましたとおり、生駒市立病院は、公立

病院の責務として「救急医療」「周産期医療」「小児医療」及び「在宅医療」について、特に強化すべきであると考えておりますことから、引き続きその医療機能強化に向けた取り組みを進めてまいります。

説明は以上となります。

【小紫会長】それでは、項目ごとに意見交換をしていきたいと思っております。最後、全体を通してご意見をお聞きしたいと思っております。

それでは、1・2ページの「診療科目」から、会員の皆様からご意見をお聞きしてまいります。

【萩原会員】生駒市に糖尿病内科は必ずしも多くなく、糖尿病内科の先生に来ていただけるのは非常にありがたいと思っておりますが、眼科の説明の中で糖尿病からのということと一般患者の受け入れをしないというのは、どういうことですか。

【遠藤会員】一般患者を受け入れる眼科を開くには色々と準備が要ります。医師を雇うことが必要ですが、実際、常勤の医師がおらず、奈良県立医科大学にお願いしても今の所医師を出せないということです。糖尿病にとって眼科は必須ですので、非常勤医師を確保し、月1回の頻度ですが、今度入職される糖尿病内科の岸谷医師に了解をいただいております。

【萩原会員】確かに白内障などの手術は、皆通らざるを得なくなるだろうし、実際、白庭病院がやっておられます。一人暮らしや通院が困難な方で入院を要する方は一定数おられ、そうすると、一般的な白内障手術でも、この交通の便でしたら事業としてはできればいいですよ。もし何か事情があるなら別ですが、確かに近畿大学奈良病院の糖尿病内科はパンク状態になり、患者が一定数見込まれるので、それに対するフォローだけでもお仕事は大変だと思いますが、できれば常勤も頑張ってください、病院の眼科の役割は、開業医もアブレーション手術されていますが、一定数希望される方もいらっしゃると思うので、伸ばしていかれたら経営的にも悪くないと思いました。

【遠藤会員】奈良県立医科大学とは話はついております。

【小紫会長】それでは1・2ページ「診療科目」、他に何かご質問ありますか。

次、3・4ページ「病床数」について、いかがでしょうか。先ほど追加で説明があり、結論としては令和9年度から小児、産婦人科を中心に20床増床という形になります。その部分も含め、ご意見等はございませんか。

5・6ページの「人員体制」について、ご意見等はございませんか。

7・8ページの「患者数」について、いかがですか。

【玉井会員】8ページ「患者数」の1日平均患者数と病床利用率ですが、令和7年度の入院患者数の年間平均は165.0人と見込まれておられ、左のページの令和5年度の事業報告で言えば142.8人、令和6年度の事業計画では年間平均141.4人となっており、これとの比較で20人を超える入院患者数の増で計画を立てておられますが、先ほどご説明のありました糖尿病内科、令和5年度に整形の常勤の医師が入られた時も話の中で入院患者が増えるとおっしゃっていて、その辺の伸びしろを見込まれて、この20数人の増となっているのですか。内訳を教えてくださいと思います。

【遠藤会長】事業計画を出す前から現在までですが、11月から今日まで当院の病床稼働率はほぼ9割、一番多い時で200床です。これは感染症が中心になるという言い方もできます。例えば年末だけや1ヶ月だけなら、そういうことも言えますが、非常にご高齢の方が介護施設に多く、感染症だけでなく心不全の方なども入院して来られ、平均的に今までの稼働率を非常に高いレベルで超えてきています。それがまず一つです。それから玉井会員が言われたように、新しい医師が新しい分野へ来ることで、ある程度見込めることを基本に165.0人にしましたが、もしかしたら少ないかもしれません。介護施設の負担が大きく、悪くならないと連れて来られない。悪くなると病院で何も治療ができないままということが多かったのですが、最近、介護施設の考え方が変わったのか、私達が話をすることがやっと伝わってきたのか、早めに治療に来ていただいて早く治して、介護施設で肺炎になったら助からないではなく、きちんと治して、また介護施設に戻っていただいて、もう1回人生やり直すのがだいぶん浸透してきました。その方達の入院数も増えているのが一つあると思うので、この数は十分クリアできるだろうと思っております。

【玉井会員】今のお話いただいたことと関連すると思いますが、病床利用率が12月末の数字では72.3%ですが、現在は190人や200人で、計算上は90%近くだとお話がありました。この病床利用率は、素人的に言えば、収益のことを考えたら70%よりは80%、80%より90%、さらにその上と単純に考えてしまいます。実際にはスタッフの関係もあり、救急を受け入れるので、いざという時のゆとりも必要でしょうから、病床利用率としては収支上あるいは病院運営上、どの辺の数字が適当なのかなと思っています。先ほどの奈良県に出した計画のところで、当面は70%を目標としているということだったと思いますが、実態とは乖離があるようです。実際、最適な病床利用率はどう考えたらいいか教えていただきたいです。

【遠藤会員】現状は、医師よりも看護師の負担が大きく、入院患者数が170人前後で、例えば8時間労働で残業なく帰る「働き方改革」の中でやるとしたら、それを20人近く上回ってくると、HCUを入れれば5病棟になりますが、それぞれ5人ぐらいつづ増えることになります。そうすると検査もあつたり、認知の方もおられたりと非常に看護師達に負担がかかっていると思います。ただ当院の性格上、断らない医療を目指していますので、

200人近くなってくると部屋がないので、この間も、酸素が必要な人だけ取る状況になったこともあります。それも現場は気持ち的に苦しくて、断りたくないが部屋がないこともあり、病床を増やせるのであればと考えながらやってきて、振り返ってみると、20床は産婦人科・小児科に限ると言われていますが、本当に良かったと思っています。今、看護師を中心にどんどん増員し、4月には17人入る予定ですので、そういう意味ではまた皆さんの負担になってくると思います。210床あるので、210床が埋まるまでは頑張っていこうかと思っています。

【小紫会長】県に申請する時に80%や90%の数字だったら、もう少しもらえたのかとか色々な議論があり、それだけ市立病院のニーズが病院患者を含めて高まっているのは確実に言えると思います。

次は、9～14ページまでまとめて「質の高い医療の提供」について、ご意見等はありませんか。

【萩原会員】ダ・ヴィンチは売りだったと思いますが、さきほど撤去と伺いましたが、現はどういう状況ですか。

【遠藤会員】ダ・ヴィンチは何年以内しか使えないというのがあり、更新の時期でしたが色々な話があり、またダ・ヴィンチが必要であれば買う予定はあります。今返すと少しメリットがあるので、一旦返したのが現実です。

【萩原会員】トータル的にどれぐらいの使用頻度で、コストもどのぐらいかかって、今の話ではある程度返ってきますよね。病院の資産をアピールするには現実プラスだったと思うので、付加価値はあったと思います。

【遠藤会員】付加価値以上のマイナスが大きかったです。最初にのってしまえばよかったのですが、なかなかのれなくて、その内普及してしまいました。分野がだいぶ広がりましたので、医師もトレーニングしますし、また機会があればと思います。

【小紫会長】ダ・ヴィンチは、議会や市民向けに話をしていた分野でもあるので、撤去になると、どうして撤去したのか、このぐらい利用があってもコストがかかり、保険適用も広がっている中で維持していくのは、今の段階で1回お休みにするが、また将来的にこういうこともあるかもしれない等の説明は、萩原会員がおっしゃるようにまとめなければいけないし、それは議会でも問われると思うので、説明できるように、我々も知っておかなければならないと思います。

次に、15～18ページの「地域完結型医療対策構築への寄与」について、ご意見等はありませんか。

【萩原会員】心筋梗塞の所ですが、24時間365日可能な体制の充実と書かれていて、全体の救急として実施されているし、そういう意気込みはいいのですが、実際、循環器内科医1名で、整形の方を増やしたいとはありました。循環器内科を増やしたいというのが出ていなかったと思うので、この辺どう解釈してよいのか。24時間365日1名の循環器内科医で対応というのは、内科医が手伝ったりされるのですか。

【遠藤会員】大学内外と今協議をしており、非常勤の医師を週1日働いていただくようになりました。次に考えられるとしたら、カテーテルを24時間する体制を取れるかどうかですが、確実に言えることは、大学は色々な所で出来ない考え方で、やはりいるところは5～8人は、一つの病院に循環器内科医が必要でしょう。そうではないと、24時間のカテーテルは無理だということで、そう考えると、当院が今後24時間のカテーテルができるためには自分たちで何か構築するしかなく、今はその当てがないので、24時間対応、カテーテルをするという意味ではなく、例えば虚血性心疾患になった場合はすぐにその判断をする体制は今とれています。心電図やレントゲン等はすぐに画像も含め飛ばせるようになっていますので、そういう形で考えていっています。

【萩原会員】今のお話だと24時間365日の救急を受け入れる所で述べられているので、あえてこの心筋梗塞の所では、時間外の記述にした方がいいと思います。救急の所と心筋梗塞だけが24時間が365日、これを推すのであれば、例えば脳卒中とかの所もそう書いていたら目立たないのですが、気になりました。

【小紫会長】他、15～18ページの「地域完結医療体制構築への寄与」でございせんか。

【玉井会員】18ページの事業計画の一番上に、「令和6年4月に医師会に入会」とありましたが、およそこの1年で医師会の入会の他、病院機能評価の認定、協力型臨床研修病院の指定、奈良県立医科大学との連携が深まっているとか、在宅医療の後方支援病院の承認を受けるということで、この一年で非常に大きなトピック、動きがいくつかあったと思いますが、この10年の市立病院の色々な地道なご努力で、医師の数が増え、地域医療機関との連携数や入院患者数が増え、こうした地道な努力と色々なこの一年の動きの中で、数字が大きくプラス方向に動いてきているのは、この資料から読み取れましたが、こうした数字に表れない所で、院長ご自身が実感しておられる目に見えない所の効果、この先もっとうこういう所にも、これらの要素が大きく働いて期待できる展望がありましたら、教えていただければと思います。

【遠藤会員】コロナ禍前に多かったのですが、奈良県立医科大との交渉をずっとしてきました。この4月に医師会に入会できたことで、生駒市立病院というのはどういう病院なの

かという感覚の中で、地元で認められている病院だという一つの指標にはなっていると思います。そういう意味で、すごく話もしやすくなっていますし、第三者の機能評価ということで、これも生駒市立病院を評価する上でその病院がどのぐらいのものなのかという評価が一番大事ですので、そういう意味では非常に手応えを感じています。数字には表れてはいませんが、初めて非常勤とはいえ、循環器からこちらの病院に来て、その大学の色々なプロジェクトをしてくれるようなので、またそれにこちらもついていけないといけない。そんなことも含め、大学との関連が増えてきている、増えていくような感じはしています。はっきりとした数字としては出てきませんが、この1年に起こったことの手応えはそういう意味で実感としてあります。

【小紫会長】市の立場から見ても、本当にこの1年は市立病院が大きく飛躍した年だと思いますし、またシンポジウムも開催でき、奈良県立医科大学の細井学長に来ていただき、この前もニュースになっていましたが、奈良県立医科大学と奈良先端科学技術大学院大学が共同法人を立ち上げるという非常に面白い事例として全国的に注目されましたし、生駒市は奈良先端大と包括協定を結んだりしていますので、そういう繋がりも色々活用しながらやっていければと思っています。

次に、19～22ページの「救急医療の充実」について、ご意見等はございませんか。大変多くの件数、高い応需率を受けていただき、来年の目標も設定していただいていると思います。

次に、23・24ページの「小児医療の充実」「災害時医療の確保」「予防医療の啓発」について、ご意見等はございませんか。

【福井会員】災害時にあっても既にそういうようなことを想定したBCPが作られているということで認識していますが、他方でサイバー攻撃のような病院の情報システムに対しに攻撃するということがありますが、備えはどのような形になっていますか。

【遠藤会員】当院も取組をしています。机上ですが紙カルテの運用ができるように体制を既に行っていますし、一度サーバーダウンした時にやっておりますが、その時に紙カルテ運用をやってみようという練習もしていますので、大阪急性期・総合医療センターの医師と話をしたところもあり、VPNを使っている関係で、それが実は被害にやられる可能性があるのですが、そこに対しては当院のSEが2人態勢で常にやっておりますし、練習もしています。

【小紫会長】病院関係のサイバー攻撃が大きなニュースになったこともあり、非常にご心配もあると思います。徳洲会のグループとしても、非常にセキュリティ対策は万全というか、この世界はなかなか100%ではありませんが、グループ全体としてしっかり対応している話も聞いていますし、そういうことはご指摘の通りだと思います。

他にいかがですか。

次、25・26・27ページの「市民参加による運営」「環境に配慮した運営」「収支」についてのご意見等はございませんか。

項目ごとにお聞きしましたが、全体を通してのご意見等がございましたら、お願いします。

【玉井会員】この会議でよくPR不足のことがあります。26ページの健康フェスティバルでいうと、昨年、私も参加させていただきました。お聞きすると1,700名を超え、特に小さい子どもを連れてご家族連れの方が、たくさんこの病院に足を運ばれている。病院にお話をお聞きすると、それぞれの企画について、医師を始めスタッフみんなで議論をし、自分達で作り上げ、拝見してもご案内のように手作り感が満載で、しかも年々手書きでも非常に見やすくなってきていると私自身も思いました。小さい子どもも色々な体験を通して、先々、医療関係に興味を持ってくれるとかそういう方向に繋がれば、なお良いことだと思いました。冒頭にPR不足と申し上げましたが、こうして病院に足を運んでいただき、見て来て触れて実感をするという意味では、もちろんペーパーやLINEを通していろんな情報が発信され、それを受け取って頂くことは大事ですが、こうして現地に足を運んでいただくような、参加者と直接病院が触れ合えるような機会は非常に重要だと改めて思いました。一番情報として知りやすい、実感しやすい、そういう動きだと思いたので、10周年もしかりですし、引き続き健康フェスティバルについてはぜひ継続をしていただければと思います。また、市立病院は10年をきっかけに、中学生以下の絵画の募集をされたそうで、市民や子どもたちの参加型のこうしたイベントとかが多くあれば、より病院に近い感覚になると思うので、非常に良い取組をされていると思います。PRも大切にしながら、こうした参加型も非常に重要だと思いたので、引き続きよろしくお願ひします。

【小紫会長】市立病院の職員が手作りで思いを持って、コロナ禍明けでしたが、しっかり最後までやりますということで感動した記憶があります。患者として市立病院に来ていただくとか、将来のお医者さんになっていただくとか、とても良い入口になっているかと思ひます。行政だけではないですが、入ったことのない店は不安で、とりあえずどんな形でも1回暖簾をくぐっていただきたいと思ひます。フェスティバルが素晴らしいとのこと。そこに来ていただいた方に、第三者機能評価を受けたとか、救急をこれだけ受けているとか真面目な話をどうPRするかが次の課題だったりしますが、こういうゆるい感じで来ていただいた方に、そういうことをしていただき、またどう絡めていくのかとか、病院関係はあまり発信できない、難しい所もあるし、行政もPRはすごく下手ですが、意識を変えて、しっかりとPRしていきたいと思ひます。

他、ご意見等はございませんか。

それでは、貴重な意見をいただき、ありがとうございました。事業計画につきましては、

会員の皆様からいただいたご意見は特に大きく修正するとかはなかったと思いますが、ご趣旨としては、いただいた質問にお答えした内容も含めて事業計画として進めていきたいと思っており、また議会へ報告させていただきたいと思っておりますので、来年度事業計画として実施していきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

それでは、報告案件としまして、一つ目「生駒市立病院のこれからを考える」ワークショップについてです。ワークショップの概要、そこで出てきた意見を報告します。昨年からは4回実施し、玉井さん岡島さんにはそちらにもご参加いただきありがとうございました。何のためにそれをやっているのかというと、6月に開催されます10周年記念式典において、生駒市が考える医療のまち作りの方向性、ビジョンと、後半10年間の指定管理を徳洲会にどのようにやっていただくのかの方向性を発表させていただくことを考えています。今日は、管理運営協議会の皆様にお集まりいただいておりますので、ワークショップだけではなく、医師会の有山会長にもご意見をいただき、色々な所でヒアリングをしていますが、管理運営委員会の趣旨が、色々な専門家の方、市民の皆様からのご意見をいただく場ですので、そのビジョン、生駒市立病院の行動方針の説明を聞いていただき、ご意見をお聞かせいただく場にしたいと思っております。6月の発表まで管理運営協議会はおそらく開催されないのでも、随時、地域医療課にご意見をいただいて結構ですが、せっかくご意見をいただく機会がございますので、説明をさせていただき、それについてディスカッションができればという趣旨です。

以上のことを踏まえ、事務局から説明をよろしくお願い申し上げます。

【事務局（市）】それでは、お手元「資料3」「資料4」と続けて説明をさせていただきます。

それでは、資料3「生駒市立病院のこれからを考える」ワークショップについて、ご説明いたします。

令和7年6月に生駒市立病院が開院10周年を迎えるにあたって、今年度、市民、医療介護従事者等の皆様に参加いただき、市立病院職員と市職員も加わって、「生駒市立病院のこれからを考えるワークショップ」を開催してきました。

1ページをご覧ください。ワークショップは全部で4回実施しました。1回目から3回目までで、参加者が考える市立病院の課題に対して、「市民ができること」「病院ができること」「市や行政ができること」を整理し、2月9日の第4回目のワークショップで、提言としてまとめ、発表していただきました。

3ページをご覧ください。グループワークにおいて、「課題」「原因」「解決策」という流れで、議論を重ね、「提案シート」を作成いただきました。

4ページから11ページに実際に当日発表があった「提案シート」をテーマごとに掲載しておりますので、ご覧いただきますようお願いいたします。ワークショップの開催期間中に広くアンケートも実施し、多くのご意見を寄せていただきました。

12ページと13ページは、まとめ会の発表内容を振り返りやすいようにグラフィッ

クレコーディング方式により、発表内容をイラストを使って可視化し、記録したものです。全4回の内容がコンパクトにまとまっています。グラフィックレコーディングの記録については生駒市立病院の7階講堂前に掲示していただき、病院スタッフにも共有していただきました。

続きまして、資料4をご覧ください。「生駒市立病院開院10周年記念式典（案）及びビジョン（案）の発表」について、このワークショップにおける提言内容と、昨年6月30日のシンポジウムでいただいた意見などを踏まえ、「少子高齢化に伴う生産人口の減少」、「災害リスクへの対応」など、市が市域全体で取り組むべきものや、地域の中核的医療機関として市立病院が取り組むべきものを整理し、今後目指すべき方向性について、「ビジョン」としてとりまとめ、6月15日に開催する「生駒市立病院開院10周年記念式典」において、市長及び院長より発表していただきます。

1ページ目に式典概要を記載しております。日時は6月15日（日）9時30分から15時30分を予定しています。場所はたけまるホールにおいて式典を開催し、併せてベルステージ等周辺施設でもブース出展をし、市立病院を身近に感じていただく機会とします。

続きまして、2ページ目をご覧ください。今後取りまとめ作業を進めていくところですが、現在予定している10周年記念式典で発表していただく骨子をまとめております。ビジョンは市、市立病院の双方で取りまとめます。市のビジョンの内容としましては、今後の10年を見据えた次の4つの課題に対する解決策をまとめます。

一つ目、「超少子化への対応」においては、子どもを安心して産み育てやすい環境整備、発達障がいなど支援が必要な子どもに対する切れ目のない支援などを取りまとめることとします。

二つ目に、「超高齢化への対応」として、医療・介護連携の推進、高齢者の受診機会の確保などを取りまとめたいと考えております。

三つ目に「生産年齢人口の急減、雇用の確保への対応」として、働き方改革の推進、奈良県立医科大学との連携の推進などを取りまとめたいと考えております。

四つ目に「災害対応」として、地震・風水害など大規模災害時の医療救護体制の整備、新型コロナウイルス対応の経験を活かした新興感染症への対応などを盛り込んでいくことを考えております。

生駒市立病院として取りまとめていただくビジョンとしましては、地域の中核的な公的医療機関として、地域の医療ニーズに柔軟に対応していくために必要とされる次の4つの医療機能を中心に取り組んでいただきたいと思います。

- ①救急医療として、病院間の連携を強化し、市内の救急応需率の向上に寄与すること
- ②周産期医療として、地域で減少する分娩機能の維持及び社会的ハイリスク妊婦の積極的な受入れ
- ③小児医療として、小児二次医療機能の維持、若い世代が安心して暮らせる医療体制の構築

④在宅医療として、医師会及び地域診療所と連携し、増加する在宅医療ニーズに対する後方支援と整理していくことを考えております。

これまでのワークショップ等の議論を踏まえ、今後予測される社会情勢の変化や新たな医療ニーズ等を踏まえ、本市の医療とまちづくりの指標となるべくこれらビジョンを取りまとめしてまいります。

会員の皆さまにおかれましては、当課の方へ本内容についてご意見をお寄せいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

説明は以上となります。

【小紫会長】最初にお詫びですが、このワークショップの資料や具体的な市立病院の方針など、これは事前にもっと早くお示ししてご意見をいただければ良かったのですが、資料の準備が十分に間に合っていない点は大変申し訳ないと思っております。

またワークショップの話は概要説明でしたが、先ほど玉井会員からご指摘あったPR不足の話、受付、接遇、バスの話、医師不足の制度、体制の話など、網羅的に色々ご意見をいただいております。市民の立場でできること、病院が中心となること、行政がやるべきことに分けて、市民の皆さんが病院・行政にやって欲しいというだけではなく、自分たちも何かできるのではないかの視点を持ちながら、他人事ではない形で、色々ご意見をいただいた所があると思っております。急に提案され難しいかもしれませんが、こういう視点が抜けているのではないかとご意見などがあればお願いします。

一つの市のビジョンというのは、市立病院を運営するにあたって、社会全体を見た時の超少子化、超高齢化や災害防災の話が非常に多面的で、その他にもデジタルとかAIの技術は非常に進んでいるとか、ワークショップの中でもありましたが、市民の力や、あとは市立病院だけではなく、他の病院や診療所との連携、病院と介護施設、福祉施設との両方の連携、そういうネットワーク、生駒市らしく、利用者の皆さんのお力をお借りしながら、共同で具体的に前に進んでいく要素とか、市立病院そのものではなく、社会全体の動きから、あと生駒市民の色々なニーズがこういう所にあるとか、一番わかりやすい例は発達障がいかもしれませんが、色々な方と話していると、発達の話が子育て層の明らかに関心が一番高い所があります。保育園があたらないとかそういうのはもちろんありますが、子どもの発達が心配な方が、肌感覚で3人に1人とか、2人に1人とかそんな話をします。我々のビジョンの方でも入れていかなければいけないし、それを受けて市立病院で発達関係の何ができるかとか、逆に市立病院だけでは難しい所が、他の病院、診療所、市民の皆様、色々な団体のお力をいただければこんなことができるかとか、考えていくきっかけになればと思っております。我々のビジョンを理解していただいた上で、ワークショップとか、去年6月のセミナーのアンケート結果や意見も踏まえながら、市立病院の今後10年の方針を考えていきたいと思っております。

事務局から説明した市のビジョン4つは、病床52床を増やしたいということで、県に申請した時や病院の経営方針みたいなものもありますが、そこからほぼそのまま引用して、

今後、特に重点的にやらなければいけない所が救急と小児、高齢者、周産期と四つありましたが、病院側からも追加とか修正とかはまだある段階と思います。より具体的な市立病院の運営ということを明らかにして今後10年ということで、お示しをしていただくのが、6月の式典、その流れでフォーラム的なものをやり、ビジョン、市立病院の運営方針、そういうものをお示しすることとなっています。

ワークショップにご参加いただいた玉井会員や岡島会員からワークショップの雰囲気とか、個人的にこういうのも入れた方がいいという話があればご意見をいただければと思います。

【岡島会員】参加させていただき、私も非常に勉強になる部分もありますが、PR不足は基本的には病院や市にお願いするものもあるかもしれませんが、我々市民が、どれだけ口コミでこの病院のことを市民の皆さんに伝えていくかが一番PRになるのではないかと、いう所で最終まとまっていた。市民は市民で市立病院のことを色々考えることもあり、それが良いように考えておられる方もいるし、なかなか医療のレビュー、口コミは難しく、個人個人で病気の種類とか治った、治らなかったとか、早く治して欲しいから来る所ですから、その通りにならなかつたら悪いレビューが残りがちですので、PRというよりは、悪い方が先に走ったりするようなこともあり、それを市民が同じ生駒市にある病院を良いように考え、良いように伝えていくのも、市民の働きの一つではないかと思っています。

私も年末にインフルエンザにかかり、こちらに来させていただき、とても流行っていた時期ですので、60分待ちでした。椅子に座る所もなく、立って待つというのも39度で周りの患者さんをずっと観察しながら、とても多い中ですので、ここでどう待っていたのか、また自動の料金の機械が二つ入ったと思いますが、その日は1個が壊れていました。私も実際患者に率先してなってみて、この会員になってからは、自分の近くの病院には行かず、全てここに来ています。

実際、自分も感じてみて、皆さんに意見させてもらったり、院内のわかりにくさも、言われた所に行ってじっとしておけば、わからないことはないですが、時間を持て余し動いたり、他の科に色々回らないといけない時にわかりにくいという話とか、最終的に私も思っているのが、私みたいに車で来る人間やたけまる号で病院の中まで、バスで来られる方はいいのですが、どうしても東生駒方面から来られる方は、横断歩道と反対側にバス停があり、どうしてもその病院に直接来るにあたっては、下の信号がある所まで一旦下がってから、またこちらに回ってこないといけないです。足腰が悪い中、横断歩道をひとつ手前に作ってもらえたらと強く要望されていた所でしたので、そんな所も含めて訴えていけたらと思っています。そこは管轄が違うと思い、その辺も含めて色々勉強させていただいたワークショップだと思いました。

【玉井会員】私は昨年9月からこのワークショップに参加させていただいて、実際、今ありましたように、グループに分かれて議論をする、そうした中ではNPOの方や福祉施設

に実際に勤務されている方、それぞれ専門分野で活動されている方も含め、本当に多くの方々と話し合いをさせていただいて、私自身も非常に有意義であったと同時に、非常に面白い経験もさせていただいたと思っています。ワークショップでテーマとして生駒市立病院のありたい姿を求めた時に、市のホームページでは挙がっていますが、ワークショップで市立病院の良い所として本当に多くの点が挙げられました。例えば24時間365日の患者受け入れや、建物に耐震性能が備わり災害に強い、あるいは産科小児科が充実している、コロナ感染症への積極的な対応をしている、医師や看護師、スタッフが非常に親切等、良い所として挙げられた点については、引き続き継続をしていただきたいと思います。

逆に市立病院のもの足りない所、あるいは市民アンケートで記載された市民の声で気になった所と言えば、医師不足、あるいは心療内科や整形外科の入院オペなど、診療科の充実を望む、またその他、受付院内のわかりにくさ、受付会計をスムーズにしてもらいたい、PR不足、そういった指摘があった点についてはそれぞれ可能な限り答え、実行していただければ必然的にそれが少なくともありたい姿の一番の基礎の所になると思いました。

その上で、私自身がある時に属したグループでは、高齢者に特化した診療科、特に認知症とか、子どもの部分で言えば発達障がい、そういう所について属したグループで色々議論をいたしまして、生駒市立病院としても専門外来の例えば設置やカウンセリングなど相談体制の充実、そういう所を目指して欲しいと意見として、私も含めてそういう方向でまとめたつもりです。その中で意見があったのは、そもそも市立病院は、救急、小児、周産期あるいは急性期がベースだから、なかなかそういう所へ行くのが難しいのではないかという意見も出ていましたので、生駒市の高齢化率も高くなってきている、また子どもの方で見ると、保護者の声として発達障がいの所が多いのを常に見聞きしていますし、小児、周産期、子どもの発達を常に病院で色々関わって見ておられる所と言えば、早期の気づきがそこへ出てくると思いますので、ぜひ10年の例えばビジョンの中に、今日拝見すると、例えば高齢者の受診機会の確保や発達障がい等支援が必要な子どもに云々という表記がありますので、おそらく各論の所で、もう少し詳しく記載されると思っています。ぜひ、そういう方向も目指して取り入れていただければと改めて思いましたので、よろしく願います。

【小紫会長】ワークショップにご参加いただいた会員の2人から大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。市民皆様の色々なご意見がたくさんあり、反映していきたいと思えますし、市民に色々とお力を頂きながらの形になっていくと思えますし、もう少し市立病院側・生駒市側が課題に基づく具体的な対応、そういう方向性みたいなものや、デジタル、SDGsや市民との連携等も入れて、管理運営協議会の会員の皆様には、途中段階でももう少し中間のまとめ、ビジョンの素案ぐらいができればお示しをして、ご意見をいただく機会を作りたいと思えますのでよろしく願いいたします。医療専門家の皆様、またワークショップに参加していただいた立場から、さらに地元の皆様に、地元との連携という所も含め、また関係するところもあるのではないかという気がします。また、

アンケートを取った中で意見をまとめて、それに対するお答えも整理して、それ自体も公開していきたいと思えますし、その公開したものをビジョン通り、対応していくこともしていきたいと思っています。

案件につきましては、これで終わりとなりますが、会議次第5「その他」としまして、何かありますか。

それでは、最後に事務局から連絡事項等ありますでしょうか。

【事務局（市）】本日はありがとうございました。「令和7年度 生駒市立病院事業計画書」につきましては、3月議会において報告させていただく予定です。

また、生駒市立病院開院10周年式典が6月15日（日）たけまるホールにて開催予定となっております。

そこでビジョンの報告等をしまして、令和6年度取り組みましたシンポジウム、ワークショップの多くの意見をいただき、本日もたくさんいただきましたが、また本協議会の会員の皆様からもご意見をお待ちしておりますので、ぜひ地域医療課までよろしく願いたいします。

皆様に式典へのご案内をさせていただく予定です。その際はぜひご参加いただきますようお願いいたします。

【小紫会長】それでは、以上で第2回目の会議を終了させていただきます。皆様のご任期が3月31日ということで、第5期の任期が満了となりますが、大変お力添えいただきましてありがとうございました。先ほど申し上げましたように、第5期中で、色々な生駒市立病院としての大きなステップがいくつもありました。医師会の入会もそうですし、病院機能評価もそうです。色々な発見があったと思います。皆様に色々ご意見いただいて、しっかりと支えていただいた賜物だと思っておりますので、引き続き、生駒市立病院の10周年、そしてその先の後半の所、ぜひ6月の式典、フォーラムにも参加をしていただきますと共に、もう一度こちらから具体的な所でのビジョンやご案内をお送りいたしますので、その時にはご意見をいただき、6月の式典にご参加いただきますよう、また、色々な形でご支援いただきますようお願い申し上げます、会議を閉じさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。